

1. 本事例集の構成

本事例集は、悪臭苦情が多く、また長期化しやすい傾向にある「堆肥化施設」に焦点を絞り、良好な対策がとられている事例を全国から集めて掲載しています。

この事例集では、堆肥化施設として、食品残さ（5件）、家畜ふん（5件）、脱水汚泥（3件）の堆肥原料ごとにまとめています。また堆肥化工程は、堆積発酵によるもの（13件）とバイオマス発電のための消化発酵（2件）があります。

事例ごとに、「本事例のポイント」を挙げ、「1.施設の概要・規模」として概要、従業員数、原材料の種類と受入れ量及び立地環境など、「2.悪臭による苦情の有無・測定」、「3.堆肥化工程と臭気を減らす工夫」「4.臭気対策の設備」として施設整備や管理上の取組などを項目別に整理しています。また、各事例における「5.地域との関わり」、「6.臭気対策のポイント」を記載しています。

施設により堆肥化工程は異なりますが、受け入れる原材料の種類、施設の規模、立地環境によっても管理の方法は様々です。事例集に掲載されている施設では処理日数は概ね40日～120日でした。堆肥製造マニュアルを策定している事業者もいましたが、さらに臭気発生が抑制され、品質も良い堆肥ができるように随時工程や手法の見直しを行っていました。

さらに、製品の品質は設備や機械に起因するところもありますが、投入される原料の違いや気象条件などに合わせて、堆肥の色や触感により、発酵の具合を確認し、水分量等を微調整するなど、堆肥の品質安定化には、担当者の経験や知識によるところが大きく影響していました。廃棄物処理という発想ではなく、有機資源の循環を担っているという意識が高い事例が多く、場内も整理が行き届いていました。

なお、今回のどの事例においても、最初から順調に今の方法に辿り着いたわけではなく、操業当時は悪臭苦情に悩み、悪臭対策について様々な方法を試行錯誤し、効果的な手法を編み出した成果であるといえます。

なお、巻末には、堆肥化施設における用語集をまとめています。